出資団体の経営状況（令和3年度決算）

（単位：千円、％）
※令和4年度出資団体評価シートに基づき作成

NO.	団　体　名	指　標	2年度決算	3　年　度　決　算	対前年度増減（率）	3年度決算概要
1	（公財）札幌国際プラザ	経常収益	327,116	335,561	8,445（ 2.6 ）	【当期経常増減額】 新型コロナウイルス感染症の拡大などの影響で、燃料費が高騰し、留学生交流センターの光熱水費が増となったことや、ハイブリッド開催に対するコンベンション開催支援が令和３年度から本格運用となったことが経常費用の主な増加要因。人件費増は、育休からの復職、正規職員以外の専門員や臨時職員の給与制度の見直しなどが主な要因。 【流動資産・固定負債】 流動資産減少の要因は年度末の未収金の減によるもので、令和３年度末で確定をする札幌市の補助事業や委託事業の未収金の減少のほか令和２年度に発生した退職者に対する引当金の減少が主なもの。なお、固定資産については大きな変動がなかった。
		当期経常増減額	1,121	▲ 7,435	▲ 8,556（ ▲763.2 ）	
		当期正味財産増減額	2,513	▲ 10,178	▲ 12,691（ ▲505.0 ）	
2	（一財）札幌市職員福利厚生会	経常収益	524,112	530,984	6,872（ 1.3 ）	【当期経常増減額】 経常収益の大幅な変動要因は、会員数の増加に伴う会費及び交付金の増が主な理由となっており、また、経常費用においては、援護事業費及びリフレッシュ事業費の増加が要因となっている。 【人件費】 市派遣職（課長職）の1名減と、定年前早期退職者に対する加算措置額を積み立てないこととしたため、過年度において積み立てた分の組戻しによる差異が要因となっている。 【流動資産および固定資産】 流動資産及び流動負債がともに増加している理由としては、永年会員助成事業の過年度未執行分が流動負債に未払計上されており、その分の現金預金が、流動資産の前年度からの増加要因となっている。
		当期経常増減額	6,131	5,725	▲ 406（ ▲6.6 ）	
		当期正味財産増減額	▲ 6,650	▲ 596	6,054（ 91.0 ）	
3	札幌総合情報センター（株）	売上高	2,662,296	2,932,081	269,785（ 10.1 ）	【売上高】 札幌市モバイルワーク環境構築・運用保守や次期グループウェア導入に係る要件定義業務などの受託の増加および、文部科学省のGIGAスクール構想に伴う通信回線増速対応で札幌市教育ネットワーク運用管理業務が増額されたことが主要因で増加した。 【営業費用】 受託額の増加に伴う委託費の増加、GIGAスクール構想に伴う通信回線増速対応による通信費の増加に加えて、業務増に対応するためのの体制強化に伴う人件費の増加など業務環境改善に積極的に取り組んだことで増加した。 【借入金残高】 借入金は札幌市基幹系情報システム開発において発生したものだが、開発は既に終了しており、本市が支払うソフトウェア利用料から借入金を返済したことによって前年度よりも減少した。
		営業利益	85,876	94,822	8,946（ 10.4 ）	
		当期純利益	52,108	59,689	7,581（ 14.5 ）	

NO.	団　体　名	指　標	2年度決算	3　年　度　決　算	対前年度増減(率)	3年度決算概要
4	札幌丘珠空港ビル(株)	売上高	149,987	165,810	15,823 (　10.5)	【売上高】 令和2年度は、新型ｺﾛﾅｳｲﾙｽの影響による航空需要の減少やこれを受けた航空会社支援のための家賃等の一部減免により売上高が大幅に減少したが、令和3年度は、家賃等の減免率見直しによる収入の増や、徐々に航空需要が回復してきたことなどによって売店売上等が増加し、対前年度比10.5%増（対前々年度比▲11.3%）となった。 【営業費用・営業利益】 新型ｺﾛﾅｳｲﾙｽの影響を踏まえ、可能な限り経費節減に努めたものの、水道光熱費の増のほか、更なるバリアフリー化の推進に向けた搭乗橋新設調査業務に係る委託費、前年度竣工したエレベーター棟に係る不動産取得税の支出もあり、営業費用は対前年度比4.9%増の142,529千円となった。 【営業外利益・当期純利益】 更なるバリアフリー化の推進に向けた搭乗橋新設調査業務に係る札幌市からの負担金を受け入れていることから前年度に比して営業外収益が増加したことなどにより、結果として、当期純利益は黒字となった。
		営業利益	▲ 5,640	▲ 2,974	2,666 (　47.3)	
		当期純利益	▲ 6,262	1,471	7,733 (　123.5)	
5	(公財)パシフィック･ミュージック･フェスティバル組織委員会	経常収益	86,110	261,498	175,388 (　203.7)	【経常収益】 前年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、ＰＭＦ2020の開催を中止したことなどにより、事業規模が大幅に小さくなったため。 【経常費用】 前年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、ＰＭＦ2020の開催を中止したことなどにより、事業規模が大幅に小さくなったため。 【当期正味財産増減額】 前年度は、収支不足に対応すべく積立金を取り崩したため。
		当期経常増減額	▲ 48,713	▲ 5,231	43,482 (　89.3)	
		当期正味財産増減額	▲ 44,023	▲ 5,252	38,771 (　88.1)	
6	(公財)札幌市芸術文化財団	経常収益	3,304,325	3,854,389	550,064 (　16.6)	【経常収益】 前年比で550,064千円余の増加となっている。これは、新型コロナウイルス感染拡大に伴う札幌市からの休館・キャンセル返金補填費用について、今年度より指定管理費の見直しとして受けたことによる受取指定管理費の増加が要因である。(前年度は経常外収益) また、利用料金についても前年比で233,562千円余の増加となっている。 【経常費用】 燃料高騰に伴う光熱水費の増加や、令和2年度より行っておりましたコンサートホールの大規模改修が明けたことによる施設維持に係る委託費が増加したこと等により、前年比で218,327千円の増加となっている。 【正味財産】 前年比で307,889千円余の増加となっている。当該増加額(剰余金)のうち271,400千円を特定費用準備資金として積立資金(固定資産)に充当したため、資産が増加したことが主な要因である。
		当期経常増減額	▲ 11,435	320,302	331,737 (　2,901.1)	
		当期正味財産増減額	108,395	307,889	199,494 (　184.0)	

NO.	団　体　名	指　標	2年度決算	3　年　度　決　算	対前年度増減(率)	3年度決算概要
7	(一財)札幌市スポーツ協会	経常収益	3,767,379	3,998,801	231,422 (　6.1)	【当期経常増減額】 令和３年度の経常収益については、新型コロナウイルス感染症拡大防止による施設の臨時休館により、利用料収益や受講料収益に大きな回復は見られなかったが、雇用調整助成金の影響により前年比231,422千円の増加となった。また経常費用は、前年度に複数施設の改修工事休館で一時的に減少したが、今年度は通常開放となり管理経費が増えたため、前年比206,945千円の増加となり、当期経常増減額は前年比24,477千円の増加となった。 【資産・流動負債】 資産は、流動資産が前年比156,136千円増加しているが、主な要因としてコロナによる雇用調整助成金やスポーツ交流施設がワクチンの集団接種会場として利用されたことによる収益が、現金預金の増加に大きく寄与したものである。流動負債は、補助金や委託料の返金に係る未払金や未払法人税等などが増加したため前年比152,966千円の増加となった。 【正味財産】 　正味財産は、資産の増加よりも若干ではあるが負債の増加が大きかったため4,669千円の減少となった。
		当期経常増減額	25,024	49,501	24,477 (　97.8)	
		当期正味財産増減額	24,504	8,331	▲ 16,173 (　▲66.0)	
8	(株)札幌ﾄﾞｰﾑ	売上高	1,868,773	3,185,791	1,317,018 (　70.5)	【売上高】 イベント利用日数及び来場者数の増加や、東京２０２０オリンピック競技大会（サッカー）の長期利用があったことから、貸館及び商業事業が増収となったほか、チケット・駐車場の各事業も増収となった。一方、広告事業は広告枠の販売減少、観光事業は営業休止などにより減収となった。 【営業利益・当期純利益】 営業利益は2億77百万円（前期比7億79百万円増）、経常利益は3億90百万円（前期比4億67百万円増）、当期純利益は2億24百万円（前期比3億6百万円増）となり、増収増益となった。
		営業利益	▲ 501,895	277,552	779,447 (　155.3)	
		当期純利益	▲ 81,959	224,535	306,494 (　374.0)	
9	(公財)さっぽろ青少年女性活動協会	経常収益	6,849,166	7,350,808	501,642 (　7.3)	【経常収益】 千歳市児童館・学童クラブ事業の新規受託及び札幌市児童会館・ミニ児童会館における児童クラブの登録児童数の増加に伴う職員の加配や、新型コロナウィルス感染予防対策に必要な経費の補填による契約額の増額改定等の要因により、前年度比で501,642千円増加した。 【人件費】 千歳市児童館・学童クラブ事業の新規受託及び札幌市児童会館・ミニ児童会館事業における職員の増加に伴い、人件費が300,538千円増加した。 【当期正味財産増減額】 児童会館等事業において、児童クラブ員の増加や期中における新型コロナ関連の契約改定に伴う収益増に対応した費用の執行を行ったが、コロナ禍によって収益が安定的に確保できる見通しが立たない事業について、可能な範囲で経費の圧縮に努めたことにより、予算上で計上する費用の執行には至らなかったことが要因である。
		当期経常増減額	96,615	146,760	50,145 (　51.9)	
		当期正味財産増減額	107,358	208,722	101,364 (　94.4)	

NO.	団　体　名	指　標	2年度決算	3　年　度　決　算	対前年度増減(率)	3年度決算概要
10	(公財)札幌市中小企業共済センター	経常収益	5,865,323	6,041,885	176,562 (　3.0)	【経常収益】 期末会員数が前年度より1,291名純増したことにより、受入退職掛金は150,234千円、受取福利会費は8,921千円の増収となった。また、退職積立金の運用委託生命保険会社各社の決算の結果、特定資産の運用益は、前年より21,791千円増の462,018千円となった。これらにより、経常収益の合計は、前年度より176,562千円増の6,041,885千円となった。 【経常費用】 経常費用増加の主な要因は、会員数の増加により、委託生命保険会社への支出である退職金等共済給付費用が169,450千円増、コロナ禍に対応した事業の利用者増加により支払利用助成金が8,108千円増となったためである。また、福利厚生事業（おうち時間も全力サポート！）の実施回数増加により広告料が20,070千円増、基幹系システム刷新のためのコンサル委託により委託費が17,890千円増となった。これらにより、経常費用の合計は前年度より207,248千円増の6,031,052千円となった。
		当期経常増減額	41,519	10,833	▲ 30,686 (　▲73.9)	
		当期正味財産増減額	41,519	10,833	▲ 30,686 (　▲73.9)	
11	(一財)さっぽろ産業振興財団	経常収益	839,587	829,798	▲ 9,789 (　▲1.2)	【経常収益・経常費用】 中小企業支援センター運営業務の札幌市事業者向けワンストップ相談窓口の縮小により、収益・費用ともに減少。 【流動負債・固定負債】 札幌イノベーションファンドへの出資により、投資有価証券が増加した。また、札幌市から出資資金を預かったとにより固定負債（預り金）が増加した。
		当期経常増減額	7,528	15,899	8,371 (　111.2)	
		当期正味財産増減額	▲ 28,893	▲ 25,975	2,918 (　10.1)	
12	(株)札幌都市開発公社	売上高	1,677,604	1,781,404	103,800 (　6.2)	【売上高】 売上高は、賃貸料収入が前年度比約7.1%増、駐車場収入が前年度比約11.5%増となり、全体で前年比6.2%増となった。 【営業費用・当期純利益】 費用面は、道路占用料の値上げ等があったが、人件費や設備更新工事の抑制等により、営業費用を前年比1.3%増に抑えることができ、当期純利益は約4,700万円増となった。
		営業利益	▲ 55,882	25,151	81,033 (　145.0)	
		当期純利益	▲ 9,553	37,815	47,368 (　495.8)	

NO.	団　体　名	指　標	2年度決算	3　年　度　決　算	対前年度増減(率)	3年度決算概要
13	(株)札幌花き地方卸売市場	売上高	119,733	122,549	2,816 (　2.4)	【売上高・当期純利益】 当期損益は売上高がR2年度より2,816千円増加したものの、R3年度においては大規模修繕工事等の実施により営業費用が売上高を上回ったため、6,568千円の赤字となった。
		営業利益	▲ 13,099	▲ 8,200	4,899 (　37.4)	
		当期純利益	▲ 6,038	▲ 6,538	▲ 500 (　▲8.3)	
14	(一財)札幌産業流通振興協会	経常収益	175,623	156,459	▲ 19,164 (　▲10.9)	【経常収益・当期正味財産増減額】 施設稼働率は前年度から回復したもののコロナ禍前の水準には至らず、受取補助金も減少したことにより、経常収益は19,164千円減少、当期正味財産増減額110,623千円の赤字となった。 【経常費用】 施設設備の修繕・更新のほか、施設利用者の利便性の向上に資する改修工事を実施したことにより、昨年度と同程度の経常費用となっている。一方、職員1名の退職に伴い人件費が10,215千円減少した。
		当期経常増減額	▲ 102,999	▲ 110,623	▲ 7,624 (　▲7.4)	
		当期正味財産増減額	▲ 102,999	▲ 110,623	▲ 7,624 (　▲7.4)	
15	(一財)札幌勤労者職業福祉センター	経常収益	456,082	653,618	197,536 (　43.3)	【経常収益】 保健所感染症対策室の受入れ及びワクチン接種会場開設に伴う会議・研修の利用増や、新型コロナウイルス感染症関連の雇用調整助成金等の受給等により、経常収益は前年比197,536千円の収入増となった。 【当期正味財産増減額】 これまでの経費節減に加えて職員の退職者不補充など費用節減に取り組み、上記収入増の結果、当期正味財産増減額は77,428千円の黒字となった。 【借入金残高】 決算により収入増となったものの、期中は新型コロナウイルス感染症の影響により、施設の一部の利用を休止した期間があったほか、レストランは１年間を通じて営業時間を短縮するなど、施設利用者は減少していたことから、札幌市からの借入金について例年の繰上償還は未実施となった。
		当期経常増減額	▲ 55,841	81,924	137,765 (　246.7)	
		当期正味財産増減額	▲ 55,984	77,428	133,412 (　238.3)	
16	(株)札幌振興公社	売上高	2,097,136	2,125,659	28,523 (　1.4)	【売上高・営業費用】 観光事業を中心に新型コロナウイルスによる停滞から若干の回復傾向で推移したことにより売上高は増加した。休業の実施などに伴い委託費や広告宣伝費が減少したことに加え、残業が減少したことにより人件費が減少した。 【営業利益・営業外収益・当期純利益】 上記の要因による営業利益の改善に加え、各種支援金等の活用により営業外収益が増加したため、当期純利益は改善した。 【資産・負債】 固定資産の減価償却が進んだことなどにより、固定資産が減少した。運転資金の借入による流動資産・流動負債の増加に加え、社債の一部が当期に満期を迎えることから、固定負債から流動負債への振替を行ったことなどにより、流動負債が増加し、固定負債が減少した。
		営業利益	▲ 548,073	▲ 361,549	186,524 (　34.0)	
		当期純利益	▲ 581,498	▲ 288,656	292,842 (　50.4)	

NO.	団　体　名	指　標	2年度決算	3　年　度　決　算	対前年度増減(率)	3年度決算概要
17	(株)札幌リゾート開発公社	売上高	977,623	973,951	▲ 3,672 (　▲0.4)	【売上高・営業外収益】 ていねプール事業は前年同様新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、札幌市から施設を閉鎖する指示があり営業中止となった。また藤野事業のサマーシーズンについては、新規事業として計画していたキャンプ事業をコロナウイルスの影響により次年度へ見送ったこと等の要因により入込は減少し、ウィンターシーズンについても入込数は前年を下回ったものの売上高は通年で増収となった。また豊平峡事業は道外、海外からの団体客の動きが殆どなかったことから入込数、売上高ともに前年を下回る結果となった。札幌国際スキー場は前年皆無だった道外からの修学旅行の来場やスキー学習の受入れ増に伴い、入込数、売上高ともに前年を上回る結果となり、全体では経常収入は1,002,836千円（対前年比5,227千円減）となった。 【営業利益・当期純利益】 営業損益は△25,487千円と前年比で77,630千円改善し、雑収入として札幌市より、ていねプールの損失対応分として13,682千円の経費の追加もあり、当期純損益は△18,832千円（対前年比62,494千円増）となった。 【資産・負債・借入金残高】 資産については、有形固定資産の減価償却が進行したこと等により減少し、負債は借入金返済を滞りなく行った結果減少した。
		営業利益	▲ 103,117	▲ 25,487	77,630 (　75.3)	
		当期純利益	▲ 81,326	▲ 18,832	62,494 (　76.8)	
18	(一財)札幌市環境事業公社	経常収益	6,985,930	7,238,624	252,694 (　3.6)	【当期経常増減額・正味財産】 経常収益については、事業系ごみ収集運搬事業におけるごみ収集量増の影響により、前年比252百万円余増加した。 一方、経常費用についても、事業系ごみ収集運搬事業におけるごみ収集量増に起因する処分料の増加等の影響により、前年比62百万円余増加した。 以上の結果、当期経常増減額は、前年比190百万円余増の391百万円余、これに当期経常外増減額及び法人税等を差し引きした当期一般正味財産額は、365百万円余となった。 【流動資産】 流動資産は、当期一般正味財産増減額が365百万円余と良好な決算だったことから、前年比273百万円余増加、また固定資産は、当期の固定資産調達等に起因し、前年比28百万円余増加したため、資産は、301百万円余増加した。 【負債】 流動負債は、事業系ごみ収集運搬事業における前受金の減少等に起因し、前年比73百万円余減少、また固定負債は、リース債務の増加に起因し、前年比9百万円余増加したことにより、負債は64百万円余減少した。
		当期経常増減額	200,802	391,089	190,287 (　94.8)	
		当期正味財産増減額	110,163	365,454	255,291 (　231.7)	

NO.	団　体　名	指　標	2年度決算	3　年　度　決　算	対前年度増減(率)	3年度決算概要
19	(株)札幌エネルギー供給公社	売上高	821,925	1,001,864	179,939 (　21.9)	【営業利益】 記録的な大雪で都心北融雪槽の稼働が供給開始以来最大となり、温熱売上が大幅に増加したことにより、冷温熱売上全体では前期比22.6%増加した。一方費用では、原料費調整額の増加及び温熱需要増加による燃料使用量の増加等により、前期比23%増加した結果、営業利益は17%増加した。 【資産】 固定資産の増加し、温熱売上増加に伴う現預金・売掛金の増加により、流動資産が増加したため、資産は前期比13.4%増加した。 【負債】 固定負債では新規借入により長期借入金が増加、流動負債では買掛金と未払法人税等により増加し、負債は前期比43.9%増加した。
		営業利益	154,627	181,048	26,421 (　17.1)	
		当期純利益	105,000	116,281	11,281 (　10.7)	
20	(株)北海道熱供給公社	売上高	4,588,650	5,004,685	416,035 (　9.1)	【売上高】 営業収益は、LNG価格高騰による都心地域燃料調整単価の影響による増収により熱供給事業営業収益は前期比342,937千円(9.8%)増加の3,841,292千円であった。電力事業や建設業事業を含む熱供給事業外営業収益は北海道瓦斯株式会社が建設中の新さっぽろエネルギーセンター運用開始前業務の受託等により前期比73,099千円(6.7%)増加の1,163,393千円であった。以上より営業収益の合計は、前期比416,036千円(9.1%)増加の5,004,685千円であった。 【営業費用】 昨年度期中に供給を開始したお客様への通年供給に伴い、冷・温水幹線導管及び供給導管等の減価償却費増加、熱・電力の販売量増加による燃料使用量の増加、LNG価格高騰等の影響による燃料費増加、さらに熱製造に係る電力料などの変動費も増加した影響等から、営業費用合計は前期比482,695千円(11.0%)増加の4,850,828千円であった。 【資産】 資産については主に固定資産（製造設備・供給設備）の減価償却による減。
		営業利益	220,517	153,858	▲ 66,659 (　▲30.2)	
		当期純利益	187,358	146,748	▲ 40,610 (　▲21.7)	
21	(公財)札幌市公園緑化協会	経常収益	1,814,864	1,820,162	5,298 (　0.3)	【経常収益・経常費用】 前年度同様、新型コロナウイルス感染防止に伴う公園施設の閉鎖を実施したが、東京オリンピック関連における施設収入（照明車使用料）や自主事業の売店（モエレ沼公園のウェブ販売）収入が増加した。 　一方、人件費増加や燃料価格高騰により、費用も増加した。 【流動資産・流動負債】 流動資産の減少に伴い、流動負債も減少した。 【固定資産・固定負債】 固定資産は、市の補助金（都市緑化基金積立補助金）が増加し、長期リース債務が減少した
		当期経常増減額	▲ 727	▲ 747	▲ 20 (　▲2.8)	
		当期正味財産増減額	▲ 798	▲ 4,587	▲ 3,789 (　▲474.8)	

NO.	団　体　名	指　標	2年度決算	3　年　度　決　算	対前年度増減(率)	3年度決算概要
22	札幌市森林組合	経常収益	70,440	76,401	5,961（　8.5 ）	【経常収益】 経常収益は前年比5,961千円増加した。 【固定資産】 有形固定資産が増加し、流動資産が減少した。 【当期正味財産増減額】 当期正味財産増減額は1,932千円の増額となった。
		当期経常増減額	▲ 3,002	2,097	5,099（　169.9 ）	
		当期正味財産増減額	▲ 3,191	1,969	5,160（　161.7 ）	
23	(一財)札幌市下水道資源公社	経常収益	3,353,863	2,934,514	▲ 419,349（　▲12.5 ）	【経常収益】 経常収益は、水処理事業収益が81,510千円の増となったものの、道路再生資材販売事業収益が264,602千円の減、下水汚泥処理事業収益が214,096千円の減となったこと等により前年比419,349千円の減となった。 【経常費用】 経常費用は請負費が35,409千円の増となったものの、道路再生資材購入費が246,271千円の減、修繕費が269,326千円の減となったこと等により前年比443,110千円の減となった。 【資産・負債】 資産は流動資産の売掛金や固定資産の減価償却引当資産の減等により9,326千円の減となった。また、負債は流動負債の未払金の減等により35,621千円の減となった。
		当期経常増減額	17,212	40,973	23,761（　138.0 ）	
		当期正味財産増減額	13,812	26,295	12,483（　90.4 ）	
24	(株)札幌副都心開発公社	売上高	3,483,338	3,749,168	265,830（　7.6 ）	【売上高・営業費用・当期純利益】 前期に行ったテナントへの賃料減額対応、ホテル需要の低下・水族館の臨時休館等が発生した反動により、当期は売上が増加し、売上原価が外部委託費及び修繕費等の減少により、営業損益以降、前期の損失から利益へと転換した（当期純利益160百万円）。 【資産・負債】 資産・負債については、利益増加に伴い現金預金が増加、また法人税算定基礎となる課税所得発生による未払税金などが増加したものの、有形固定資産の償却や借入金の返済が進んだことで、全体として減少している。
		営業利益	▲ 329,709	186,761	516,470（　156.6 ）	
		当期純利益	▲ 424,365	160,297	584,662（　137.8 ）	
25	(一財)札幌市住宅管理公社	経常収益	5,383,393	5,213,612	▲ 169,781（　▲3.2 ）	【流動資産・流動負債】 令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大により学校等市施設保全事業の一部が中止となったことに伴い、受託事業費の返還金が発生したが、3年度は概ね計画通りの業務の執行となり未払金が減少し、流動資産及び流動負債が減少した。
		当期経常増減額	17,813	29,704	11,891（　66.8 ）	
		当期正味財産増減額	17,722	29,629	11,907（　67.2 ）	

NO.	団　体　名	指　標	2年度決算	3　年　度　決　算	対前年度増減(率)	3年度決算概要
26	(一財)札幌市交通事業振興公社	経常収益	5,301,641	5,380,981	79,340 (　1.5)	【経常収益】 軌道運送事業における乗車料収入がR2年度比約8,736万円増収したため。(R2年度乗車料収入1,050,933千円、R3年度乗車料収入1,138,301千円) 【経常費用】 札幌市に支払う施設使用料の減少及び不急な業務の先送りによるもの。(R2年度施設使用料664,833千円、R3年度施設使用料449,446千円) 【資産・負債】 新型コロナウイルス感染症感染拡大による学校等の一斉休校に対応すべく保管していた定期券の払戻対応金の金額を変更したことによるもの。(R2年度末保管額150,000千円、R3年度末保管額50,000千円)
		当期経常増減額	▲ 151,482	28,558	180,040 (　118.9)	
		当期正味財産増減額	▲ 145,698	▲ 1,387	144,311 (　99.0)	
27	(一財)さっぽろ水道サービス協会	経常収益	1,618,032	1,625,679	7,647 (　0.5)	【流動資産】 資産のうち、流動資産については、正味財産の増加に伴い、預金が増加したこと等により、前年度に比べ32百万円の増となった。 【固定資産】 資産のうち、固定資産については、１契約あたり300万円以上のリース契約が増加したことに伴い、リース資産が増加したこと等により、前年度に比べ23百万円の増となった。 【正味財産】 正味財産については、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、水道記念館の普及宣伝に係る費用や、研修及び出張が減少したこと等に加え、経費全体の抑制を図ったことから支出が減少し、前年度に比べ44百万円の増となった。
		当期経常増減額	75,315	73,826	▲ 1,489 (　▲2.0)	
		当期正味財産増減額	49,471	44,648	▲ 4,823 (　▲9.7)	
28	(公財)札幌市防災協会	経常収益	155,059	171,957	16,898 (　10.9)	【経常収益】 　新型コロナウイルス感染症が一時的に収束し、市委託業務のうち、特に単価契約である応急手当の普及啓発に関する事業の実施数が増加したことに伴い、経常収益が増となった。 【経常費用】 人員削減により、人件費が大きく減少し、経常費用が減となった。
		当期経常増減額	▲ 36,101	▲ 2,953	33,148 (　91.8)	
		当期正味財産増減額	▲ 18,483	2,831	21,314 (　115.3)	

NO.	団　体　名	指　標	2年度決算	3　年　度　決　算	対前年度増減(率)	3年度決算概要
29	(公財)札幌市生涯学習振興財団	経常収益	841,228	813,686	▲ 27,542 (　▲3.3)	【当期経常増減額】 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、生涯学習センターの施設利用料や青少年科学館の観覧料収入が大きく減少した結果、経常収益が前年比で27,542千円減少。一方で、退職不補充による人件費の減少や事業中止等に伴う委託費等の減少により、経常費用も前年比で54,313千円減少。その結果、当期経常増減額は26,771千円増加した。 【資産】 現金預金の増加に伴い、流動資産は前年比で74,697千円増加。固定資産も什器備品やリース資産等の増加に伴い前年比で7,844千円増加。その結果、資産全体で82,541千円増加した。 【負債】 施設利用や事業の再開に伴い、昨年度減少した、翌事業年度に係る施設利用料や講座受講料などの前受金が増加するなどし、流動負債が前年比で26,913千円増加。リース債務や退職給付引当金の増額に伴い、固定負債も前年比で4,732千円増加。その結果、負債全体で31,645千円増加した。
		当期経常増減額	12,579	39,350	26,771 (　212.8)	
		当期正味財産増減額	12,510	50,896	38,386 (　306.8)	
30	(公財)札幌市学校給食会	経常収益	3,498,522	3,976,842	478,320 (　13.7)	【経常収益・経常費用】 経常収益及び経常費用の対前年度比増の主な要因は、令和2年度には新型コロナウイルス感染症の影響により、市立小中学校等の一斉臨時休業（4/16～5/31）があったが、令和3年度は休業等がなく、給食物資調達事業収益、物資調達斡旋料及び物資購入費が増加（回復）したことによる。 【流動資産・流動負債】 流動資産及び流動負債の対前年度比減の主な要因は、上記感染症による休業等の影響がなく、給食物資未収金及び同未払金が減少したことによる。
		当期経常増減額	▲ 284	1,700	1,984 (　698.6)	
		当期正味財産増減額	▲ 284	2,436	2,720 (　957.7)	